

杉並区議選 投票率アップへ市民動く

東京

ちよつとの力で変わるかも

低い投票率が課題の地方選挙。4月の東京都杉並区議選では、投票率を上げるために市民が奔走。投票率は4.3%上がりました。女性当選者が男性を上回り、新人15人が当選。自民党は幹事長含め7人が落選。住民はなぜ動いたのでしょうか。

投票率は前回から4.1%増え43.66%、約2万人が新たに投票しました。定員48の半数にあたる24人の女性が当選。分裂していた自民党は16から9議席、公明党が7から6議席に減らす中、立憲民主党は3から6議席に増やし、日本共産党は現有6議席を維持しました。

人へのアンケート結果をカタログ化、自分の考え

に近い候補をネット検索できる「杉並区議選ドラ

(林直子)

選挙で行われたのは、特定候補の応援だけではありません。投票率アップのため、市民はさまざまに動きました。

お店で投票済証を見せると割引などが受けられる「選挙割すぎなみ2023」。区議の議案賛否一覧をつけた「選挙に行こう」チラシ。全候補69



共同街宣する杉並区議選の候補者=4月15日、東京都杉並区(田中はじめ撮影)

女性議員半数 自民多数落選



りこひん ◆ 4月の区議選みんな頑張った!投票率... @... 4月3日

本日、ひとり街宣デビューしました!

北口で山田耕平さんたちが街宣してらしたので、わーいと思ってそちらに行ったら、ひとり街宣の先輩Kさんがいらして「街宣付き合うわよ」と。ありがたい金明日、一緒に街宣する約束して、プラカードも預かっていただきました。

#ひとり街宣



ひとり街宣を報告する、りこひんさんのツイート

「私の選挙」として多くの人が加わるきっかけになった区長選。会社員の菅沼佐子さん(44)は「おっさんゴルフ政治への反感は女性の方

自分には力がある

が強かった」と話します。

区政に反映してくれる女性リーダーが現れました。でも誰もできる応援として、急速に広がりました。「自分たちでできる形に、市民が選挙をぐっと引き寄せた。自分には力があるという感覚、エンパワーメントを強く感じました」。

杉並区は自民・石原伸晃氏の地盤。保守系区長が20年近く続きました。21年衆院選小選挙区で、立民の吉田晴美氏を当選させてから大きく変わり始めました。22年区長選では岸本氏が、気候危機対策、対話によるまちづくり、民営化見直し、ジーンダー平等などをかかげて当選。政治を動かす体験を重ねた市民が今年、区議会も変えました。

課題も意識されています。岸本区長の選対本部長を務めた、アジア太平洋資料センター共同代表の内田聖子さんは「新しい政治を望む声は高まり続けています。それでも区民の半分以上が投票に行っていない。本当の無関心層とどうつながるかが課題」と語ります。

「区議選では一定、エンパワーできました。しかしまだ多くの人が現状を自己責任と思わされ、行政を変える発想から遠ざけられている。選挙結果にかかわらず、住民の運動は止まつてはいけない